

## 栃木県眼科医会理事会だより(平成21年度第3回)

日時：平成21年9月16日(水) 午後7時より

場所：宇都宮市医師会館

出席：宮下会長、原(裕)、旭副会長、木村、大久保(彰)、大野、吉沢(徹)、城山、苗加、落合(憲)、上田、小幡、大沼、井岡、斉藤(哲)、高橋(雄)、堤理事、松島(雄)監事、斉藤(武)、茨木顧問 計20名

欠席：斉藤(春)、福島、牧野、松島(博)理事、鈴木監事、柏瀬、早津、稲葉(光)、田口、妹尾、佐藤顧問 計11名

### [会長挨拶]

皆さんお忙しいところありがとうございます。8月も過ぎ、政権がガラッと変わりましたが、これからどうなるのか、いい事ばかりのようにも聞こえますが、まだ何もわかっていません。医療の事業税導入の件などにつき、心配しています。本日も議題がたくさんありますので、よろしくお願いします。

### [総務]

#### 報告：1. 平成21年度日眼医全国支部長会議報告(9月6日(日)東京プリンスホテル)

宮下会長が出席。

会長挨拶：先の衆議院議員の選挙では民主党が圧勝した。先行きの読めない時代になった。22年度改訂に向けて努力している。社会保険について中医協の医療収益DPCでは、眼科が突出して良い結果で、我々の認識とかけ離れた結果であり、人件費などの効率が良いといわれたが公平性や調査方法など問題が多いため、22年度には影響させないと約束を得た。しかし眼科に対する逆風が収まっていない。厚労省とのヒアリングで眼科医会からはCL検査料と処置料について、日眼と手術学会からはローヴィジョンの指導点数と硝子体手術のビットセットについて要望している。

眼科医会の組織変革として以前から3本柱の改革を行っている。眼科医会としては中身を充実させること(ソフト面)。日眼は学問だけでなく医療全体の諸問題を扱う組織の全体性を持たせる(ハード面)。ソフトとハードのも両面から改革の動きがでている。医療と医学の間が急速に縮まっている。EBM、インフォームドコンセント、クリニカルパス、医療訴訟など医療を取り巻く環境が引き金になっている。時代背景から日眼が学問だけしていればよい時代ではなくなっている。眼科医療の社会的重要性について研究報告し情報を公開している。日眼との関係はお互いに風通しを良くするよう情報公開をして問題提起している。日眼とのコンセンサスを得て日眼と日眼医が一つにならないといけなくなるか、将来については余談を持たない。

公益法人についてはメリットとデメリットがある。作業工程について報告する。眼鏡技術者についての問題は十分時間をかけて解決する方針。広く意見を載せている。屈折矯正は医療であり、屈折異常は眼科疾患である。日眼とともに屈折矯正のワーキンググループを立ち上げ、また顧問弁護士の児玉弁護士とも相談し、学問的に検討している。また専門医試験にも今後10年間詳しい問題を出

す。視力に大切な視能訓練士協会とも密接に関連し視力を重視していく。

銀座眼科とCL問題については、モラルハザードの問題だがモラルハザードの難しさを痛感している。懲罰の問題があるが、除名問題について法的な問題を児玉弁護士と相談し、倫理の問題だけでなく民事や刑事裁判をみて社会的判断を鑑みる必要がある。日眼医、日眼でも倫理問題について難しく代行の手助けだけをする形になる。この件は総務で検討中。

CLのグランドビューの問題。CLによる眼障害の問題を、薬事法の改正、社保の点数改正、情報公開などいつも多面的に医療対策をするようにし一定の効果を得ている。しかし社会保険点数についてまじめな一般の会員への迷惑をなくすように厚労省に働きかけている。

会長は3期6年までで受けたので。三宅会長は会長選に出ない。禍根を残さないように世代交代したい。

専門医資格更新の証明について要望書を日眼医から日眼に提出した。日眼医会会長と支部長の証明が必要。保留会員は支部長が証明できないことから資格更新ができていない。支部長の「意見書」を添えて日眼医会長の押印のみでも認めるよう要望書を提出。

5年後に国際眼科学会総会が行われる。2014年4月第1週なら東京の国際フォーラムで、第2週なら横浜で開催される。約13,000人出席予定。10億円の予算。会長は大島教授。

#### 1. 総務部管理

1-1) 日眼との定期協議会について：専門医資格更新について「日本眼科学会に5年間に1度出席を義務づける」から「日本眼科学会総会また臨床眼科学会に」への改定案に対し112名中賛成52名、反対22名棄権38名であった。

1-2) 裁定委員会について：銀座眼科院長の弁護士と連絡、本人との面談はなし。

1-3) 80周年記念事業について：事業を行う。式典は平成22年6月27日(日)第2回定例代議員会・総会に併せて実施。場所は東京新宿の京王プラザホテル、記念誌も出す予定。

1-4) 会員名簿について：CD-ROMで出す。紙ベースの名簿も3000部作る。

#### 2. 総務部企画

2-1) 医事紛争事例調査について2008年には70件。3年に1度まとめが出る。9-10月に調査用紙を支部に依頼する。

2-2) 眼科女性医師支援に関する実態調査の報告と検討課題について：今まで要望がない。女性部会があるのは7支部で関西の方は活発。

#### 3. 経理部

3-1) 日眼医の財務状況について：公益法人に対応できる。内部留保率が少し上昇した。

#### 4. 公衆衛生部

4-1) 平成21年度「目の愛護デー」行事について

4-2) 三歳児検診アンケート調査について：栃木県は佐野市、大田原市、高根沢町、大平町にアンケートを送付予定

4-3) 日本眼科啓発会議について：日眼とともに協力。国内機内誌などに

白内障の手術が100万件をこした。CL使用者の10%に眼障害。屈折異常の啓発。

- 4-4)「目の健康講座」ガイドラインの改定：助成金の限度額が引き上げられ、予算1,600万円から2,400万円になる。

## 5. 広報部

- 5-1) 平成21年度日本眼科医会記者発表会について：9月17日に日眼医の研究について発表する。  
山田昌和先生から「本邦の視覚障害者の数 現況と将来予測」  
米国と同じ基準で判定して、現在の視覚障害者数が144万人  
平塚義宗先生から「視覚障害の疾病負担 自分も困る、家族も困る、社会も困る 視覚障害」  
8兆8千億円が必要。予防や治療によって経済効果が上がる。
- 5-2)「日本の眼科」サイズ変更について：A4版にして好評。

## 6. 学校保健部

- 6-1)「学校現場におけるCL実態調査」の実施について：今年も10月末日までにお願する。昨年度は栃木県は宇都宮市立西が丘小学校、国元中学校、県立宇都宮女子高校。
- 6-2) 色覚事後措置のガイドライン検討委員会について：一般眼科に来たときの色覚指導のガイドラインとする。手引き書はできたので来年度配布する予定。
- 6-3) 第63回日本臨床眼科学会学校保健部のインストラクションコース、セミナーについて：学校での視力検査の重要性と色覚の事後措置  
フェアウエルセミナー：「幼稚園と就学時健診での視力検査」「学校でのコンタクトレンズの健康教育」「学校での色覚バリアフリーの啓発」
- 6-4)「平成20年度幼稚園と就学時の視力検査」結果の速報：幼稚園で50.7%が未実施。小学校では8.9%が未実施だった。

## 7. 学術部

- 7-1) 眼科コメディカル教育事業の現状について：平均点が低かった。各支部の受講者の増減（栃木県で平成15年度との比22%減）テキスト代1000円。
- 7-2) 第63回日本臨床眼科学会について：山田先生と平塚先生にイブニングセミナー（勤務医部）
- 7-3) 視能訓練士養成学校について：「日本の眼科」8月号。1-2年間視能訓練士学校に入っているだけで視能訓練士になれる（九州保健福祉大学）また、インターネットで1年間勉強して土日に通ってもとれる（東京医薬専門学校）  
勤務しているOMAは入学金5万円免除。マンパワーを養成する。

## 8. 社会保険部

- 8-1) 各支部健保担当理事連絡会について：10月25日(日)10時～15時 東京グランドホテル
- 8-2) コンタクトレンズ検査料の患者の割合の調査について：各支部5施設対象。栃木県は0～29%（平均11.4%）（全国平均12.6%）

8-3) 眼科有床診療所実態調査について：朝令暮改の医療政策と診療報酬の低下で、手術入院をする施設が減少。日帰り手術になっているので入院が減少。しかし地域内での有床診療所の存在意義を訴えていきたい。

8-4) 眼科全国レセプト調査：5年になるので、感謝状を出す。；勝ち組の施設や有床診療所が対象になりやすく眼科は点数が良いように誤解されるのではないかと意見があった。

## 9. 医療対策部

9-1) 平成21年度各支部における力を注いでいる医事問題について：ブロック代表で選ばれた先生に各支部から情報を出してもらって検討する。

9-2) 各種アンケート調査について：CLの眼障害について（112件）今年も10月に限定した障害調査を行う。インターネット・通信販売CLによる眼障害について9月から1ヶ月間。不適切な眼鏡による障害と処方書き換えについても9月1ヶ月間

9-3) 医療機器・販売業等の管理者に対する継続的研修の開催について：臨眼で行う、申込者は150名

9-4) コンタクトレンズブランドビュー2009について：多面的な議論のたたき台にして欲しい。九州でのCL自動販売機が良くないと対面販売を厚労省に要望。

## 10. 勤務医部

10-1) 眼科後期研修医の実態調査について：233名で低落傾向。栃木県2名。

10-2) 第63回日本臨床眼科学会イブニングセミナー：「眼科救急医療の病診連携－みんなで支えるシステム作り－」10月9日18時～19時 福岡サンパレス パレスルーム

10-3) 第10回全国勤務医連絡協議会の開催について：11月8日（日）10時～15時 東京グランドホテル 3階「桜の間」

## 総務部企画

[集中討議]新公益法人制度への対応について

平成25年までに、公益法人にするか新制度に対応した社団法人に移行しなければならない。現在のままでは解散になり内部保留金は寄付になる。

### ●公益法人を受けたときの

#### メリット

- ・社会的信用が上がる：官公庁へ提言がしやすい。
- ・寄付行為：個人寄付は所得税控除。寄付を行う側の控除額が一般社団の2倍の額が控除となる。

#### デメリット

- ・将来1事業でも公益事業でないと判断された場合、事業が公益でないと見られる。既存事業は、一度認定された事業になるので可能性は低いと思われる。
- ・全予算に対する公益目的事業費率を50%に維持しなければならない。（現在でも70%を超えているのでクリアできる見込み）
- ・大きな公益目的外事業（会員の福利厚生など）を実施しにくくなる。

- ・公益法人を取り消された場合は、一度解散になる。内部保留金は他団体に贈与しなければならず、再度改めて社団法人を立ち上げる必要がある。
- ・遊休財産（内部保留金）は、ほぼ1年分の公益目的事業費と同額程度に制限される。

●一般社団法人となった場合

メリット

- ・目的・事業の制限はない。
- ・遊休財産（内部保留）の制限はない。

デメリット

- ・社会的信用の低下：（やくざでもつくれる）官公庁の折衝で不利になる。
- ・関連団体とのアンバランス。
- ・寄付税制の優遇がなくなる。

## 2. 会員の異動

転出 B 反町一恵（獨協医大） 千葉へ

勤務先変更 B 青木真祐（自治医大） 栃木市 青木眼科医院

### 協議：1. 日眼医より依頼の「眼科医事紛争事例調査【平成20年度分】ご協力をお願い」について

斉藤(春)理事が担当。後日県医師会に問い合わせする予定。

## [経理]

### 報告：1. 第32回獨協医大眼科・栃眼医合同講演会収支報告

収入 会費（A B57名、C2名）174,000円

支出 講師御礼20万、講師お車代4万、医局御礼3万、

タクシー代(医局立替分)2万、軽食代81,600円、秘書人件費2万、

慰労会72,400円 計464,000円

差額の290,000円を一般会計から補助

### 2. 平成21年度眼科初期救急体制整備支援事業費補助金について

県医事厚生課から50万円の交付が決定されたとの通知あり。振込みは来年4月頃になる予定。

## [学術]

### 報告：1. 第32回獨協医大眼科・栃眼医合同講演会開催報告(7月24日獨協医大)

71名が参加、盛会のうちに終了。

### 協議：1. 第17回栃木眼科セミナーの件（自治医大、興和創薬共催、当会后援、10月2日(金)ホテル東日本）

講演1：「C L関連感染性角膜炎」 愛媛大学医学部 宇野敏彦臨床教授

講演2：「大人の斜視手術について」 自治医科大学 牧野伸二講師

### 2. 第58回栃木県眼科医会集談会開催の件（11月6日(金)宇都宮医師会館）

両大学で3題ずつ演題報告予定。特別講演は永田万由美先生(獨協医大)の「眼内レンズ挿入眼の臨床評価」を予定。

**３．栃木県小児眼科講習会開催の件（栃眼医忘年会）（11月29日(日)千寿、参天製薬と共催）13:00～16:10 宇都宮グランドホテル**

終了後栃眼医忘年会を開催する予定。

- 講演1：「点眼薬の開発と眼内動態」 参天製薬 河嶋 洋一先生  
講演2：「小児の斜視手術」 国立成育医療センター 仁科 幸子先生  
講演3：「点眼薬の最適化－計算機援用型眼科薬物動態モデルを用いた製剤設計－」  
千寿製薬 大鳥 聡先生  
講演4：「小児網膜硝子体疾患治療の最前線」 大阪大学眼科 日下 俊次先生

**４．第42回栃木県眼科医会研究会について（1月15日(金)宇都宮グランドホテル）**

特別講演２題は未定。

**５．第3回栃木県内科眼科関連疾患懇談会について（11月26日(木)興和新薬と共催 宇都宮グランドホテル）**

テーマは「高血圧と眼底出血について」を予定。

**[医療安全対策及び福祉]**

**報告：１．「眼科コメディカルのための眼科学ガイド」改訂第6版について**

日本眼科医会眼科医療従事者委員会発行 定価1,000円 斉藤(春)理事が担当予定。

**２．平成21年度栃眼医忘年会について**

11月29日(日) 宇都宮グランドホテル 栃木県小児眼科講習会終了後に16:20から予定。

**[保険]**

**報告：１．平成21年度日眼医各支部健保担当理事連絡協議会議題提出について（10月25日(日) 東京グランドホテル）**

井岡理事が出席予定。提出議題は、要望事項として抗VEGF抗体の手技料(硝子体注入)認定と、光干渉式眼軸長測定検査への点数の認定、の２題。

**２．眼科有床診療所アンケート調査結果の御礼と報告**

8月25日日眼医本部より送付。全国796施設からの回答が寄せられた。後日日本の眼科に掲載予定。

**３．「薬価基準の追補収載について」日眼医より送付（9月4日(金)）**

ルミガン点眼液0.03%(千寿=武田)薬価960.00円 緑内障・高眼圧治療剤

**協議：１．健保研究会開催の件（11月6日(金)宇都宮市医師会館、栃木県眼科集談会と共催予定）**

事前に会員各位から質問を募集し、審査委員が回答予定。

**２．平成21年度第2回栃木県社保国保審査委員連絡協議会開催の件**

日眼医健保担当理事連絡協議会が終了後、健保担当理事と保険審査委員が出席し、11月6日までの間に開催する予定。

**[広報]**

**報告：１．会報第42号集金状況報告**

21社に案内状を送付し、18社から振込みがあった。残り3社に再度確認する予定。

## **協議：１．栃眼医ホームページについて**

斉藤(武)顧問が担当。URLをドットコムにすると、商用を意味するため、当会としてはor.jpで登録の方がよい。その方針で手続きを進めている。

## **[学校保健]**

### **報告：１．第33回日眼医全国眼科学校医連絡協議会出席報告(7月26日(日)東京グランドホテル)**

苗加理事が出席。平成20年度事業報告、平成21年度事業計画が報告された。内容は関連団体との連携強化、学校保健の知識の普及、各種教材の作成、全国学校医連絡協議会の開催など。その他幼稚園と就学時健診での学校保健の実態調査の結果集計、学校におけるコンタクトレンズの実態調査の実施など。また、弱視眼鏡の公費補助年齢が今までは10才未満であったが、今後10才以上でも認められるよう要望している、との事。年齢制限については保険者によって現状でも状況が違ってくるので、調査する予定。

## **[公衆衛生]**

### **報告：１．「目の愛護デー」記念行事準備委員会開催報告(8月1日(土) 宇都宮市健康センター(ララスクエアビル9階))**

総務、担当理事が出席し、会場の下見と当日の手順確認を行なった。

「目の愛護デー記念行事」(10月4日(日)宇都宮市健康センター(ララスクエアビル9階))

13:30～14:30 目の健康講座：

「意外に多い眼瞼下垂 ―受診のタイミングと治療法―

高橋佳二講師(獨協医大)

14:30～16:30 眼科無料相談会・無料眼圧測定

相談員：加藤健先生、西村僚先生、岩井紳先生、大沼修先生、  
牧野伸二先生、他栃眼医担当理事

### **２．「目の愛護デー」記念行事のちらし・ポスター配布**

9月10日に各関係機関に配布済み。

### **３．「「目の愛護デー」実施および実施状況について」日眼医より送付(8月5日(水))**

支部から回答済み。

### **４．眼科一次救急診療NHKデータ放送開始の件**

NHKの地デジローカルで、眼科一次救急診療の情報発信が開始された。

## **協議：１．「日本アイバンク」の角膜移植功労者推薦について**

本県からは昨年に続き妹尾正教授(獨協医大)を推薦する。

## **[医療対策]**

### **報告：１．平成21年度コンタクトレンズ販売管理者継続研修会(12月6日(日)とちぎ健康の森)準備状況報告**

内海隆先生(大阪医科大)に講演を依頼している。

演題は「小児のコンタクトレンズ処方について」

各医療機関に案内書を発送済み。

**[勤務医]**

**協議：１．第10回全国勤務医連絡協議会への提出議題について（11月8日(日)東京グランドホテル）**

上田理事が出席予定。提出議題はなし。

**[日眼医連盟]**

**報告：１．平成21年度日本眼科医連盟協議委員会出席報告(9月6日(日)東京プリンスホテル)**

日眼医全国支部長会議に続き行なわれた。宮下会長が出席。

委員長挨拶：選挙での公約では自民・民主とも保険医療を重視すると言った。しかし社会保障の詳細は不明である。丹羽代議士に特大の後押しをしたが落選した。噂では引退を表明しているようだ。民主に対して日眼医は民主内に眼科医療のグループを作るべく数名と接触してきた。吉田統彦氏について支援頂いた。彼は日本眼科医会のB会員で米国ジョン・ホプキンス大学の研究員で米国にいたまま比例で当選した。眼鏡士問題にあたる自由党の小沢氏に推薦したのが縁になった。反川村市長系から人を出したいとのことで吉田先生（34歳）を推薦した。（3、4年後に再選挙があるので小沢チルドレンとして大変だと思う）研究員も辞めるようになるが本人は張り切っている。宇沢先生の研究から社会保障費を減らすと国が衰退するという論文を、小沢氏、麻生氏とNHKの会長に渡した。

議題

- 1）平成20年度会務報告の件
- 2）平成20年度会計報告の件：総務省のホームページに詳細が掲載中。
- 3）平成21年度会務中間報告の件：
- 4）平成21年度会費納入状況と徴収依頼：栃木は現在0%。20年度は69%だった。
- 5）その他：各支部で眼科医連盟口座を持って欲しい。（本県はすでに作成済み）

**[その他]**

9月17日、NHO栃木病院の研修室で第1回眼科一次救急報告会を開催、旭副会長が一年間の実績を報告する。同じ内容を栃眼医集談会（11月6日）でも発表予定。

次回理事会は11月18日(水)に開催する。

以上  
(吉沢 徹 記)